「地域組織」モデル地区の取組の様子

「地域組織」の活動について、県内で２か所、吉賀町と隠岐の島町をモデル地区として設定して、研究活動を先行実施していただいています。それぞれの町において、令和３年度途中まで活動を行った様子をお伝えします。「地域組織」としての活動を行う場合や、基礎研究を行う時の参考にしてください。

１．実施組織

◯吉賀町：事務グループ組織

柿木・吉賀中グループ、六日市中グループと、ふたつのグループがある。

ほぼ毎月、合同会という形で集まっており、その活動のひとつとして実施した。

◯隠岐の島町：事務グループ組織

隠岐の島町には、西郷・五箇・都万中グループ（構成人数：7 人）と、西郷南中グループ（構成人数：5 人）の二つのグループがある。それぞれのグループで月に 1 回程度の活動を行っており、場合によっては合同で活動をすることもある。

２．実施時期・内容

◯吉賀町

◇年度当初の取組：6 月 14 日

年度当初の取組は柿木・吉賀中グループ、六日市中グループ合同会で実施。

8 人が、各自が立てた自己目標＝研究主題を発表し、意見交換を行った。

おおむね 1 時間 30 分程度の時間がかかった。

◇年度途中の取組：10 月 19 日

年度途中の取組については、鹿足郡教研・事務部会の取組として行い、吉賀町・津和野町の事務職員が合同で実施した。

12 人が、年度前半の取組内容や、その時点での状況について発表し、意見交換を行った。

休憩も含め、おおむね 2 時間 30 分程度行った。

◯隠岐の島町

◇年度当初の取組

6 月 17 日と 6 月 21 日にそれぞれのグループで年度当初に立てた自己目標についての意見交換を行った。一人あたり 5 分程度で自己目標の発表をしていただき、その後、意見交換を行ったが、おおむね 1 時間 30 分程度（7 人の場合）の時間がかかった。

初めての活動ということもあり、意見交換の場では、最初はなかなか発言が出にくい様子だったが、なれるにつれて、それぞれの立場（校種・キャリアステージ等）からの意見が出る場面もあり、とても有意義な情報交換がなされていた。

◇年度途中の取組

隠岐の島町では、11 月のグループ会で、それぞれに年度途中の意見交換を行う予定。西郷南中グループでは、上記の年度途中の取組とは別に、毎回（毎月）の会で、各自の実践の取組状況や進捗状況の情報交換を行った。特に、進展がなく情報交換がなされない時もあったが、取組を行ってから近い段階での情報交換を行うことで、活発な話し合いが行われていた。

３．研究活動を行ってみての感想

◇研究活動についての感想

・負担に感じる部分も少しはあるが、みんながそれぞれで取り組み、その様子を知ることができ、自分の取り組みへの励みになった。
・研究をしているという感覚は少ないが、この実践を行うことで、業務改善は行っている感覚はある。これが、周りの教員や学校運営への支援にもつながっていると思えば、「事務をつかさどる」ことができているような気がする。
・今までの研究活動とは違い、普段の業務から意識を高めるような活動で取り組みやすかった。
・今回の活動を研究活動と意識して、「研究の記録」に記録する（言葉に残す）のは難しかったが、取組の記録を残すものだと考えると理解できた。

◇地域組織で活動することについての感想

・事務グループからのアドバイスを、自分の取組に活かすことができる。
・アドバイスをする側も、課題解決能力を高めることにつながる。
・この取組をきっかけに、相談しやすくなる。
・他校の取組を参考にできる。
・この取組には、事務グループ会の時に多くの時間を要するが、効果は大きいと思う。

４．両地域の取組からわかること

◯事務グループ組織の活動のひとつとして位置づけている

→今次の研究活動を「OJT」の取組のひとつと捉え、「業務改善」を目指した活動、という意識で、事務グループ組織で実施している様子がうかがえる。

◯アドバイスや意見交換を行う際にかかる時間

→ひとりにつき約１０分程度（１０分～１３分）の時間をかけて行っている。
実施をされる場合、時間設定の参考にしてほしい。
例：5 人の場合→約 1 時間　　7 人の場合→1 時 20 分～1 時間 30 分